

スキマタイムズ

もっとお互いを理解するための場や時間を



日本自立生活センター自立支援事業所 2011年6月28日発行 第3号

「日本自立生活センター自立支援事業所」ってどんなところ？
じつは、介助者派遣だけじゃない！！「地域で自分らしく生きること」をキーワードに、
いろいろなことをしています。今回はそのひとつ、「ILクラブ」をご紹介します☆

ILクラブは、障害のある子どもが放課後に「ゆったいマイペースに過ごせる
場所があったらいいなあ、そこでJCILらしい関わりができたらいいなあ」
という思いで、2005年12月にスタートしました。
活動日時は毎週月曜と木曜の14～18時。活動場所はワークス
共同作業所1Fのフリースペース松の間をお借りしています。



来てくれたメンバーはスタッフとのんびり話をしたり、メンバー同士でゲーム
をして盛り上がったり、仲良くお菓子を食べたいして過ごしています。
ときには嫌なことがあってピリピリした雰囲気になることもありますが、それ
もまた、お互いを知ることができるいい機会です。

活動日が祝日のときは、ILホリデーと銘打って電車やバスで出掛けます。行き先
や内容は放課後のメンバーとスタッフと一緒に相談して決めています。カラオケ
やボウリングの日もあれば、清水寺や金閣寺など観光地に行ったり、美術館の
パウル・クレー展に行ったこともありました。



松の間は、ワークスをはじめJCILのスタッフやお客さんたち、介助者
の皆さんや近所の人たちなど色々な人と出会える場なので、学校と家
の往復だけでは得ることのできない経験を重ねられているのではない
かと思います。スキマタイムズ読者のみなさんも、ILクラブの活動を見
かけられた際はお気軽にお立ち寄り下さい。お待ちしております(´o`)

ILクラブスタッフ 児玉・廣川・辻本

「スキマタイムズ」の紙面に対するご意見ご感想待ってます！HPでも読めます！！

日本自立生活センター自立支援事業所 編集担当: 齋木・白川・横川

TEL: 075-682-7950 E-mail: jcil-kyoto@jcil.jp URL: <http://www.jcil.jp/zigyosho/index.html>



～介助のある風景～ 「相 棒」

宮川 泰三

今と昔のヘルパーについてお話しします。

僕が30歳くらいの時、20年くらい前にJCILに入った。当時はなんと一人で身体が動かせたので、買い物とか、ヘルパーなしで出かけた。掃除とか洗濯とか料理、風呂は一人で出来ないからアテンダントを使った。アテンダントというのは自費お金を払って介助してもらうシステムで、一時間800円は金銭的に苦しかった。時間数も足りなかった。昔は携帯電話などなかったので、出先でトイレを失敗したときは一度家に戻ってから事務所に電話してアテンダントに来てもらい着替えさせてもらった。そんな時、自分の家の鍵穴に鍵を挿す事さえなかなかできなくて困った事がよくあった。ヘルパーには朝だけ来てもらっていた。

当時の悩みはなかなかヘルパーとコミュニケーションが取れなかったことで、ある時こんな事件があった。あるヘルパーに僕の家「なんでダニが多いんや」、「薬買ってこい」と怒鳴られた事があった。一方的に言われてうまく反論できなかった僕は、当時事業所がなかったので福祉事務所に行って「もうヘルパー来なくていい」と言い、僕は怒って帰ってきた。そのヘルパーはもう来なかった。その代わりにアテンダントを使って生活した。その後また事件発生!! 実家からの手紙をヘルパーに勝手に読まれ、実家に勝手に電話を掛けられたのだ。その時も福祉事務所に怒りに行った(JCILの上司と一緒に怒ってくれた)。

なんだかんだあって、「ヘルパーは僕の話をちゃんと聞け、アホ」と思っていた。昔はヘルパーが話を聞かない、僕は言語障害があるので何回も聞き返してくれないと困るのだ、アホ。

それからしばらくして首の手術をした。僕が入院してる最中に支援費制度ができて、現在のJCILの支援事業所ができた。当時は亀岡のグループホームに住んでいた。そこは山の上で、週二回くらい車でデイサービスに通った。亀岡の福祉事務所から派遣されたヘルパーが朝一時間半くらい来て、午後4時頃家にデイサービスから帰ってきて、それからJCILのヘルパーが来た。ほんまはデイサービス

JCILは機関紙『自由人』を発行しています。その人気連載である「介助のある風景」や「今、介助に行きます」では、介助をつかっている人、介助をする人が自分の生活や気持ち、生き方を綴っています。いろいろな人がいる!ということをお伝えしたいと思い、この通信でも一部をご紹介します。『自由人』についての詳しい情報は日本自立生活センターの金・内藤(075-671-8484)まで。

に行きたくなかったけど、福祉事務所に亀岡のヘルパーが足りないから行けと言われていた。それが嫌だったから、京都ならJCILのヘルパーがたくさんいるので早く京都市に家を探そうと思ったけど、九条河原町の松ノ木団地しか見つからなかった。実は、僕はプレッシャーがかかるのでJCILから離れた場所に住みたかった(^o^;)。今ではあきらめました(^_^)。今は九条烏丸団地の車いす住宅に住んでいます。

ヘルパーに話を戻すと、今ではちゃんと自分の話も聞いてくれるし、安心して泥酔いにもなれるし、幸いにも今年の4月から利用時間数が増えたから外出時間も多くなった。タバコの火をひざの上にも落とすもすぐ拾ってもらえる。土曜日には映画を見に行ったりもします。

こんなこともあった。ある夜、部屋に帰ると鍵穴にいっぱい爪楊枝を詰められて瞬間接着剤で固めてあった。ドアには「金返せ!!」と殴り書きがあった。人間違いだったと思うけど、鍵は閉まらないし、誰が来るかわからなかったし、警察に言っても何もしてくれなかったのでもとても怖かった。その夜はヘルパーが泊まってくれて寝ることができました。

これからはもっと多くの自立生活をする障害者が増えて、時間数ももっと増やしてもらって、相棒(ヘルパー)に支えられながらも街に自由に出来るようにして欲しいと思います。

(2008年6月25日「自由人59号」より掲載)

暑い夏にむけて元気に! ヨガタイム

外の暑さと冷房の寒さで調子を崩しやすいこの季節、
ヨガで自分の身体と向き合ってみよう!

今回のテーマは「夏バテ予防」。食欲がなくなったり、熱帯夜で寝不足になったりしていませんか? 「グツタリ」になる前に身体を動かして、暑さを乗り切る力をたくわえましょう。

また、イスヨガは「身体スッキリ気の流れをよくしよう!」をテーマに、自分の「気」をみつめます。ほんの少しの意識で身体が変わるのを実感しますよ。

初めてでも、体がかたくても大丈夫! ぜひ参加してください。講師は石田久美さんです。

★イスヨガ: 車いすやイスに座って行うヨガ

日 時: 7月26日(火) 17:00-17:30

場 所: 日本自立生活センター事務所

持ち物: 上半身は動きやすい服装

費 用: 無料

★ヨガ: 全身をうごかすヨガ(介助者のみ)

日 時: 7月7日(木)、26日(火) 18:15-19:30

場 所: 油小路事務所2F

持ち物: 動きやすい服装・タオル・飲み物

費 用: 無料



居場所づくり勉強会第9弾!

『カンフー田中のおもしろい漫談』

脳性まひの漫談家、カンフー田中です。鶴橋の作業所ウィールチェアでパンの販売をしています。

私の初めての介助人は道に迷ったり、適当なことを言う変な人でした。(今では販売部長で偉いさんです) そのことを作業所で話したら受けて愉快的気持ちになり、それ以降、日々のおもしろ話を文章にして、福祉業界のみなさんにメールなどで披露するようになりました。その後、笑福亭鶴瓶さんと出会い、漫談家「カンフー田中」と名付けられました。

僕のドジ話で、同じ障害者の人が励まされたり、健常者の人に介助っておもしろいなと感じてもらいたいと思い、この4月、漫談集を自費出版しました。

この度、JCILの介助者、紀井さんに本作りを手伝ってもらったという縁があり、お邪魔させて頂くことになりました。京都のみなさんに会えることを楽しみにしています。

日 時：7月13日(水) 14:00-16:00

場 所：日本自立生活センター事務所

講 師：漫談家 カンフー田中さん(男盛り?の1960年生まれ)

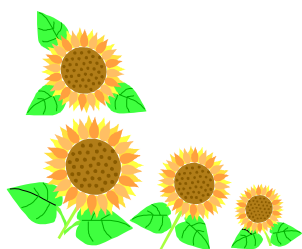
(本名 田中雅章 作業所ウィールチェア販売員)

内 容：僕の生い立ちと漫談への思い

漫談集『カンフー田中のおもしろい漫談2』の紹介

みんなで漫談をつくってみよう!

担 当：小泉



居場所づくり勉強会第7弾報告「今、原発を考える」

1970年代の四国の伊方原発建設反対訴訟から、原発の危険性を指摘しつづけておられる榎田劭(つちだたかし)さんを講師に迎えました。原発の政治的・経済的背景、安全神話と「想定外」の意味、原発の構造と事故の危険性、「高度な専門性」がもつ視野の狭さ、そしてこれからの社会のあり方などをわかりやすく話してくださいました。それぞれが原発と自分の生活をつなげて考えることができたと思います。参加者の一人、段原克彦さんの報告と感想です。

5月31日に居場所作り勉強会「今、原発を考える」が行われました。講師には、長年どんな意味においても「原発」に関わってこられた榎田劭さんが招かれました。事務所の灯りを消し、曇り空の柔らかな薄明かりが差し込む中、勉強会が行われました。

勉強会において、「原発」を巡るさまざまなこと、榎田さんの道程にそっと寄り添いながら、そうして訴えかけずにはいられないさまざまなこと、が語られました。榎田さんの穏やかで、静かに語られる言葉、また、それらの言葉の背景に退き、語られることがなかった言葉、そのそれぞれにふっと思いをはせながら、その場を浸していた「温度」を、それぞれが、さまざまな形で共有しているような、良い勉強会であったように思います。

今、「原発」について、またそれを巡るさまざまなことについて、数多くのことが語られています。さまざまな大きさの、そしてさまざまな声色で。

少なくとも今こうした形でなにか具体的なことについて語ることは控えておきたい、と思います(勉強会で語られた具体的なことについても。この文章の依頼を受けておいてあんまりだとも思うのですが)。ただ、伝えておかなければいけないこととして、榎田さんは、「何か」とくらべるなどできないそれぞれの個別的な生活にそっと思いをはせながら、それでも決断された姿勢から語られているように思われて、それがとても印象的だったのでした。

「子どもが(そして、成人した男がおぼろげな記憶の中で)、母親の衣服のすそにしがみついていたときに顔をうずめていたその古い衣服の襞(ひだ)のうちで見いだすもの——これこそが本書が含んでいなければならないものである」(ヴォルター・ベンヤミン『パッセージ論』より)

なぜだかふっと、こんな言葉を思い起こしたのでした。
(段原克彦)

入院中に介助者がいなくて 困ったことはありませんか？

—— 制度の利用が困難な方へ ——



今までのスキマタイムズでご紹介した「入院時コミュニケーション支援員派遣制度」。この制度を使えば、入院中も介助者に来てもらえるかもしれません。最終回の今回は、この制度の利用が困難だと思われる方へのお知らせです。

◆質問形式で制度について解説します！



コウチさん

京都市で自立生活をしており、1日18時間重度訪問介護を利用している。入院すると利用時間がなくなるので不安。この制度の事は少し分かってきた。今度入院する。

★登場人物



カガワさん

コウチさんの近所に住んでいる。事情通な人。



私は「入院時コミュニケーション支援員派遣制度」の利用対象外かもしれない。どうしたら良いものか…？

利用要件が少し難しいので、限られた方しか制度を利用できないように感じられたかもしれません。しかし、家族と暮らしている方や言語障害のない方なども利用している実績があります。該当しないと思われた方もまずは事業所にご相談下さい。



調べてみたら、京都市以外の都市にも似たような制度があるようです。今後、この制度の利用要件は緩和されるかもしれませんね。

そうですね。

京都市よりも利用要件が簡単な制度を設けている自治体もあります。

出来たばかりの制度なので、皆さんが声を上げることでより良い制度になっていくと思います。



☆「入院時コミュニケーション支援員派遣制度」の紹介は今回で終わりです。今後、制度の利用要件が変わった場合は「スキマタイムズ」でも紹介します。

「入院時コミュニケーション支援員派遣制度」の経過についてはJCILの機関紙「自由人」もご覧ください。

※緊急の方や該当しないと思われた方もまずは事業所にご相談下さい。